

博物館だより

第17号



てい きゃく けん 蹄脚硯

長野市指定文化財

昭和44年(1969年)、長野市南長野県町(現・長野国際会館)の発掘調査で、奈良時代の掘立柱建物の掘り方埋土内から出土しました。蹄脚硯は、その多くが宮殿や、官衛かんがと呼ばれる地方の役所跡などから発見されることから、この遺跡が、古代長野盆地にあって、その中心地の一部であったことが想定されています。

しかし、官衛と確定するに足るような遺構は発見されず、今後、周辺の調査がすすむことによって、解明されると思われます。

現在、蹄脚硯は復元されて、常設展示室の「信濃国の成立」のコーナーに展示されています。

私たちの食生活と深い関わりを持つ台所用具(鍋・釜)のルーツは縄文土器です。土器の出現によって食料として利用される種類が大幅に増え、なかでも特に植物質食料資源の開発が飛躍的に進みました。例えば、ドングリ類は土器を用いての煮沸による熱処理の工程を経ることでアク抜き、シブ抜きが可能となり、食用に供されました。

このように縄文土器の出現による食体系の広がりや、定住化や活発な文化的活動を促進させる原動力にもなったと言えます。

土から鉄・アルミニウムと材質は大きく変化しましたが、縄文土器以降の鍋釜という用具の基本は変わりません。「食」という観点より現在の私たちとの接点を探るため、土器づくりの体験を通じて、先人の知恵や生活技術を考えようと企画したのが本教室です。



▲ 土器の成形

1回目(9月30日)は縄文土器を初めてする土器一般についての概略的な話と常設展にて実物の土器を見ました。更に土器作りということだけでなく、縄文時代の暮らし全般について詳しく知るため、映画を観ました。これらの情報をもとにして、土器写真集の中から参加者各自が作りたい土器を選びました。縄文土器に魅せられたようで、全員が縄文土器を選びました。実物の土器を目の前にして、作ることができれば理想的なのですが、次回からは写真をみながら作ることにします。

2回目(10月7日)はいよいよ形づくりです。粘土は近隣で良好な粘土が見つからなかったので瓦屋の粘土(東筑摩郡坂井村採集という)を用いることにしました。この粘土はできあがったものなので「練る」という工程は省きました。

参加者は1人4kgの粘土を使って、底から順に粘土紐を積み上げていきます。モデルと同じ形に作るのは結構むずかしいようです。このあと文様付けです。文様施文は写真を見ながらなので、全体構成や施文具・施文手法など細部がわからず苦労した所もありました。

3回目(10月10日)は終わった人から、丸い小石などを用いて、水もれを防ぐために内面のみがきを行ないました。このあと、土器を日の当たらない場所で保管し、乾燥させます。

4回目(10月28日)は土器づくりの総決算ともいべき野焼きの工程です。当日は快晴になりましたが、前日があいにくの雨降りです。野焼きする場所が湿ったため、3時間ほど空焚きをしたあと、本焼きを1時間40分ほどかけて行ないました。参加者は割れるのではないかと不安をいだいていましたが、大方大きな破損はなかったため、喜びようはひとしおでした。各々大切に持ち帰りました。

5回目(11月11日)は土器づくりをした経験や学習したことを発表させるため、見学会を行ないました。縄文遺跡の宝庫として知られる八ヶ岳山麓

の富士見町・原村・茅野市の各資料館で縄文土器を観察しました。参加者は縄文人の技術とセンスに圧倒され、しばし立ち止まって、凝視していました。実際に経験してみても、本物の土器との大きな違いに驚き、先人の技術と知恵に素直に感じ入ったようでした。これまで各人がなにげなく見ていたのとは違う視点から見ることで、観て感じるようになったようです。全員が新たな気持ちで再び土器づくりに挑戦してみたいと思ったようです。

当館では、今年度初めて「土器づくり」の教室を設けました。来年度以降、この教室を継続していく予定ですが、更に参加者と共に研究を重ね、試行錯誤を繰り返しながら、先人の知恵に近づき、過去との時間的隔たりを埋めていきたいと考えています。



▲野焼き (10月28日)

参加者の作った土器が、いよいよ本焼きとなります。

ビデオ化完成

～「長野盆地の生いたち」・
「川中島の戦い」～



今まで1階の「長野盆地の生いたち」と2階の「川中島の戦い」のコーナーでは、スライドによる映像展示を行なっていましたが、故障の多いスライドをやめ、ビデオの導入を進めていました。そして平成2年12月に完成し、新しい映像としてスタートしました。

ビデオの利点をより生かすために取材をできるだけ多くし、変化のある編集を行い、今まで

スライドでは理解しにくかった点を改善しました。

特に「川中島の戦い」では50インチの大画面で迫力ある映像を御覧いただけますので、一度常設展示室へどうぞ。

新しく導入されたビデオ

「長野盆地の生いたち」 ▲

「川中島の戦い」 ▶



博物館だより No.17 1991.1.10

編集・発行 長野市立博物館

〒381-22 長野市小島田町八幡原史跡公園内

☎ (0262) 84-9011